

① はまなか

議会だより

NO 121

平成29年7月25日発行



ゴールに向かってよーい ドン!! ☺ (霧多布保育所)

6月定例会

	国保税率改正の概要	2P
予 算 議	障がい者支援センターの改修内容は	3P~6P
一 般 質 問	4人の議員が町政を問う	8P~11P
	雲外蒼天 (澤辺 大地 さん)	12P

一般会計補正予算3億1045万円を追加 予算総額 77億325万円に

6月
定例会
15日・16日

国保会計

独立採算で運営

6月定例会が15日・16日の2日間の会期で開催。一般会計・特別会計補正予算と条例改正など25議案が上程され、いずれも原案どおり可決されました。また、農業委員任命は13人を満場一致で同意。一般質問では、4人の議員が登壇しました。

国保税一世帯あたり

平均1万217円の減

国保税の改正は、算定の基礎となる前年の総所得を基本に税率を調整し、国保会計の健全化を図ろうとするもの。

一世帯あたりの課税総額は、平均35万4808円となり、前年対比1万217円の減額となる。

国保会計は、独立採算制で医療費支出に見合う分を国保税に求めるのが原則である。

税率などの改正は、医療費分のみ世帯別平等割を2千円引き下げたほか、所得割も医療費分・後期高齢者

分・介護分ともに税率の引き下げを図っている。

今年度も一般会計からの法定外繰り入れをせず前年を下回る課税額となったのは、納税者の納付努力や国の制度改正による低所得者への財政支援の拡充により前年度繰越金が増えたことによるものである。

また、低所得者軽減は、一定の所得以下の世帯の国保税を軽減する制度である。今回の改正で軽減内容が拡充された。

内訳は医療分2591万円、後期高齢者分739万円、介護分293万円の軽減となる。課税世帯と軽減世帯の状況は下記のとおり。

平成29年度 課税世帯と低所得者軽減世帯の状況

区分	課税世帯	低所得軽減世帯
医療費分	1,160 (1,232)	482 (532)
後期高齢者分	1,160 (1,232)	482 (532)
介護分	725 (783)	232 (257)

() 内は平成28年度

※法定外繰り入れとは、一般財源(町税など)を用いて国保税の減税財源や収入補てんに充てる繰り入れのこと。

平成30年度より新制度に

市町村の国保は、医療費や保険税の地域差が大きいことや、財政運営が不安定になるリスクが高い小規模市町村が多く存在するという構造的な課題を抱えている。

こうした課題を改善し、持続可能な制度を目指すべく、平成30年度から都道府県が市町村と共同で国保の運営を行うこととなり、都道府県は財政運営の責任を担い、市町村は従来通りの窓口業務や保険税の賦課・徴収、保険事務などの役割を担うことになる。

補正予算審議から

障がい者支援センターの改修内容は

自立した生活を支援する施設となる。対象者は現在通所している3人に加え、町外の施設などに通所している22人、在宅で自宅の自営を手伝っている10人程度となる。活動内容は、現在行っている昆布の加工などに加え、お弁当の自主生産を行い高齢者や障がい者への

問 旧榊町小学校の利活用として、地域活動支援センター・子ども発達支援センターへの施設改修予算として工事請負費8750万円備品購入費として479万が予算計上されている。

答 地域活動支援センターは、障がい者と社会との交流を促進し、宅配を予定している。またカフェを開設し交流の場を設ける。運営委託先は、社会福祉法人鉦路恵愛協会「地域支援センター・ハート鉦路」である。

子ども発達支援センターは、障がいのある児童を通所させ、日常生活の基本的動作などを習得、訓練する施設となる。対象者は、就学前児童が6人・就学児童および中学生が8人・定員オーバーにより通所できない待機児童が2人ほどいる。現在は、旧榊町保育所で週1日開設している。運営委託先は、北海道社会福祉事業団である。

改修工事の工期は、4ヵ月を要し、平成30年度中の開設を予定している。町民への周知PRについては、広報誌、パンフレットの作成を考えている。

問 工事費、備品購入費ともに高額となっているが、積算内容の精査、圧縮は可能か。

また、雨漏りしている屋根の改修や外壁の改修など必要なものの積算となっている。

備品は、事務机や食器棚など使えるものは、そのまま使用することになっている。今後、工事の入札や備品購入にあたり細部にわたり見直し、削れるものがあるか検討し、できるだけ安価になるよう取り組みたい。



障がい者支援の拠点となる旧榊町小学校

女子大生の情報発信力を活用

問 首都圏の

大学生をアンバサダー（親善大使）として活用する「浜中町集落ネットワーク

圏活性化支援事業」を実施するための補助として1999万円が予算計上されている。

商工会が事業主体で総務省の過疎地域等自立活性化推進交付金10

0が充当を活用。道内では2件しか採択されていないので画期的な事業になると認識している。具体的な事業概要は。

答 予定事業は、3点ありひとつは地域資源活用集落ネットワーク圏構築事業で原料の供給から加工・販売に至る地域資源を活用するためのネットワークを構築する。

また、将来首都圏でのアンテナショップなどを見据え地域資源を再評価し市場に受け入れられる商品・サービス開発をするワークショップを開く。事業費は501万円。

2点目は、インターネットショップ関係者（受入れ事業者宿泊など）による検討会を開き、恒常的にインターネットショップを受入れられる体制を検証し、本町に大学生など若年層の受入れ増を目指し交流人口拡大による移住定住の促進に繋げるもので事業費は1489万円。

3点目は、平成30年度に首都圏での情報発信・販路拡大拠点として本町のアンテナショップを設置・運用することの実現可能性を検証するもので事業費は8万円。

これらの事業を首都圏の情報度の高い女子大生8人を本町のアンバサダーとして活用するもので本町に滞在しながら町民と交流し地域資源を若年層の女性消費者視点で再評価し、商品開発や着地型観光開発を検

討するワークショップを開催。

本町での滞在スケジュールは、9月2日～24日までの23日間と2月12日～16日までの5日間、計28日間を予定。

霧多布防潮堤の高上げは

問 霧多布海岸防潮堤高

上改良事業は、昨年基本調査設計が実施され、この度実施設計委託料1752万円が計上されている。調査設計の内容と事業期間および北海道が進める建設海岸防潮堤嵩上事業（29年～32年）との兼ね合いは。

答 基本調査設計内容は、防潮堤延長1・9kmの9断面と陸間5カ所の基本設計および7カ所の地質調査である。

総事業費は7億7千万円の試算である。期間は、28年～32年の5カ年を予定しているが、交付金の配分率からも数年延びる見通しである。補正の内容は、琵琶瀬側

滞在中は毎日1件、アンバサダー自身のSNSで首都圏の若年層や友人を中心に本町の魅力を発信。浜中町のファンとなって応援していただく事業を展開する。

滞在中は毎日1件、アンバサダー自身のSNSで首都圏の若年層や友人を中心に本町の魅力を発信。浜中町のファンとなって応援していただく事業を展開する。

から、道事業との進捗状況のバランスが必要である。ただ、道も町も国の「社会資本整備総合交付金」が財源であることから道の事業期間も流動的である。

問 1年でも早く完成するために、政治家として町長自ら道・開発局・国交省などへの要望活動をすべきでは。

答 町長自身が汗をかくことは当然のことと思っ



嵩上げが待たれる防潮堤と陸間

カキ養殖試験事業は

問 栽培漁業の補助金483万円の事業内容は。

答 水産振興基金を財源に浜中漁協が実施するカキ養殖試験事業へ補助するもの。

新規漁場1620平方メートルの環境調査で、海底地形・土質・波浪などを調査する。

また、事業実施に係る資材（かご・ロープ・フロートなど）の購入費である。



成果が期待されるカキ試験事業

後継者就業交付金制度の申請状況は

問 4月からスタートした新制度であるが、農業で120万円・漁業で120万円・商工業で55万円の補正額である。

現時点での申請件数および利用者の受け止め方は。

また、次年度以降も継続して取り組む事業でもあり後継者として根付いて貰うには就業後のさまざまな悩み・課題へのサポート体制の強化が必要と考えるが。

答 申請件数は、農業3件（高卒2・他1）漁業7件（高卒5・Uターン2）商工業2件（Uターン2）である。

本人または父母との面談では「進路で迷っていたが

この制度で決断できた」「卒業後は、家業に就くつもりでいたが制度により後継者としての意欲が湧いた」などの声も聴け、制度として背中を押す効果はあったと捉えており継続すべき事業と考えて、制度の周知徹底を図って行く。

サポート体制については各団体や協議会などの組織と連携し、悩み挫折する前の相談支援を充実していきたい。

一般コミュニティ事業助成金の活用内容は

問 今年度の一般コミュニティ事業（宝くじ助成事業）250万円の助成先と購入内容は。

また、助成要望団体の順番を決める基準は。

答 今年度は、仲の浜自治会への助成となっている。

対象物件は、物置の設置と和机兼用の折りたたみ式会

議用テーブル、音響設備の購入である。

また、コミュニティ事業の決め方は、町内28自治会・町内会の中で過去にこの事業助成を受けていない地域を優先し、過去に助成を受けた地域から再度要望を受けた場合は、活用時期が古くなっている地域からの順としている。

現時点で仲の浜以外の新規要望は1自治会で再度要望は3自治会となっている。



助成対象となった仲の浜福祉館

ラジオCMの内容は

問 STVラジオの「日高 晤郎ショー」でのCM広告料138万円の詳細は。

答 8月～3月まで毎週土曜日、浜中町に関するCMが番組内で流される。これに併せ、CMソングの製作も行う。

日高晤郎ショーは全道ラ

ジオ番組の中で聴取率がナンバーワンと言われており、この中でCMを流すことは非常に効果が高いと思われる。

関係者出演の機会もあるので、特産品を持参するなど浜中町のPRを行っている。町長自ら出演し積極的にPRに努める。



ウィークエンドバラエティ 日高晤郎ショー

「ゆうゆ」施設整備と運営の将来方向は

問 温水ボイラーの改修1890万円は

以前から懸念されていたボイラー本体の真空漏れによるものか。

また、ロールスクリーン

の設置50万円の設置50万円は。なお、「ゆうゆ」の民間運営に向け、指定管理を受け

たいという事業所があるうちに温泉の配管点検や改修を計画的に進めるべきと思うが。

答 温水ボイラーは、昨年12月に真空状態が保てないということで補修した経過があり、いったんは正常に稼働したが、本体の真空が保てない状況から更新するもの。

また、ロールスクリーンは、休憩ロビー・カウンター前の窓に設

置するもので床面や陳列商品の日焼け止めと西日防止対策の要望を受けて新設するもの。

なお、「ゆうゆ」の指定管理に向けては、温泉管（湯管）が20年近く経っているため、来年度で1千万円程度の費用をかけ点検調査を実施し、その結果、湯管が腐食し、改修が必要となれば3千万～5千万円の改修費用が予想されるので点検調査後に指定管理事業者への移行スケジュールを組みたいと思っている。



ロールスクリーンが設置される休憩ロビー

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
公有財産購入（公共用敷地）	463万円
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業補助（クラスター事業）	2825万円
町道維持補修工事（丸佐橋一部改修・緑栄橋改修）	3300万円

繰越明許費繰越 計算書の報告

○役場庁舎建設工事基本設計委託料 2894万円

○地方公共団体情報システム機構負担金 48万円

○風力発電施設修繕料 383万円

○林業専用道調査設計委託料 850万円

○温水プール調査補助委託料 70万円

いずれも28年度内に終了できなかったことから、事業費を29年度に繰り越したことが報告された。

辺地総合整備計画策定

○茶内地区辺地の総合整備計画は「除雪トラック」の購入。事業費2400万円
○円朱別地区辺地の総合整備計画は「除雪グレーダ」の購入。

事業費5222万円

○熊牛地区辺地の総合整備計画は「浜中姉別地区一般農道」の整備事業。

事業費3億4206万円

工事請負契約を可決

□防災行政無線デジタル化工事

(契約先) サンエス・浜中無線経常建設共同企業体

(契約金額) 7506万円
(工期) 平成30年3月15日

専決処分の 報告を承認

■一般会計(28年度)

特別交付税などの確定により、備荒資金組合超過納付金への積み立てなど、7210万円を追加し、予算総額を66億5989万円に。

■浜中診療所特別会計(28年度)

医薬材料費など81万円を追加し、予算総額を2億4815万円に。

農業委員の任命に同意

「農業委員会等に関する法律」の一部改正により、農業委員の選挙による委員

ならびに選任による委員の選出方法が改められた。

委員は、その職務を適切に行うことができる人を市町村長が議会の同意を得て任命するもの。

7月19日付けで前委員の任期満了となることから、後任の13人(別表)の任命に全会一致で同意。
任期は3年である。

氏名	住所
堀金 澄恵	茶内第一
村越 敏春	厚陽
嵯峨 弘巳	茶内北区
橋場 和幸	西円朱別
百々 栄二	熊牛
白川 英之	茶内第一
梅原 順一	姉別南
篠原 弘	円朱別
谷口 正明	姉別緑栄
穴吹 栄	茶内第三
白川 俊明	茶内橋北
新井功仁恵	茶内東区
阿部 栄子	暮帰別

全員協議会活動レポート

議会には、2つの常任委員会(総務経済・社会文教)があり、所管事項の調査活動をしているが、議長が主宰する全員協議会で協議検討している事項の報告をします。

新庁舎建設の動向

防災機能を備えた役場新庁舎は、昨年10月の臨時会で裏山への建設が決まり、基本調査設計の段階にあるが、建設スケジュールに基づく全議員での協議を時系列に報告する。

○本年2月基本構想(素案)の説明と基本設計委託の発注、建設予定地の地主の承諾について協議。

○5月基本構想成案の説明を受け、裏山への建設予定地3案の現地調査を実施し、意見調整を行う。

○6月2日には建設予定地について議会としての推奨案を決定した。

○同月22日には議会の推奨案をベースとした建設予定地について、敷地面積、建設期間、建設費用などさらに詳細な説明を受けた。



現地調査



建設地の模型

※今後のスケジュール
7月中旬、基本計画案を全戸配布し、パブリックコメントを8月上旬締切で実施。
8月中旬、基本計画の策定を経て実施設計を行い平成31年度から2カ年で建設予定。

一般質問

川村 義春 議員



川村 平成23年度から津波

避難タワー建設の考えを町長に質してきたが、実現を見ていない。これまでの答弁を検証した結果、平成25年頃までの答弁は「まったく手を付けていない訳ではない。建設コンサルタント3社に設計を相談中」と避難タワー建設に前向きであったが、北海道が公表した新たな津波浸水予測を

問 津波避難タワーの 建設計画の状況は

答 MGロードの改良整備 完了後に対応

受けて、平成28年の9月定例会では「道道（MGロード）の複線化を優先し、その後避難タワーの調査設計を含め、時間を要するが計画的に進めたい」と町長の考え方が変わった。

地元は、避難タワーを造ることは複線化不要論につながることを懸念し、要望を抑えてきたが、一向に進まない北海道の対応に業を煮やしている。せめてY字路の改修をとの思いもあるがそんな動きも無い。



岩手県久慈市が建設した津波避難タワー

よって、いつ起きるか解らない地震津波に対応できるよう道への要請と並行して避難タワーの建設を町単独費で行う計画を示し、地元住民を安心させて欲しいと思うが。

町長 避難タワーの計画は3・11の東日本大震災を踏まえ、住民が少しでも早く高台に避難すべきと見直し避難道である道道の複線化を最優先にするよう考えを変えた。

今後の進め方としては、

MGロードのY字路改修を最優先に。次に寿磯橋までの複線化を優先して対応いただくよう町長自ら要請行動したい。

避難タワーの建設計画はそれが解決された段階で地域住民と相談し対応したい。

問 ふるさと納税
募集サイトの工夫を

答 期間限定返礼品の
表示を工夫したい

川村 返礼品のサイトを開らくと目に飛び込んでくる人気の高い特産品が塩水ウニパックなどの期間限定品である。その見本写真の中に「品切れ中」と表示されているが申し込みを受け、配送可能な時期のみ表示するなど工夫できないか。

町長 返礼品（特産品）によるPRは、産業振興に繋がるものと認識している。

町のホームページで検索できるサイト「ふるさとチョイス」で紹介している期間限定品の表示方法や配置などを工夫し、「品切れ中」であっても本町の特産品を紹介し続けて行きたい。

一般質問

田甫 哲朗 議員



問

新庁舎面積は 妥当であるか

答

業務に必要な面積である

田甫 庁舎面積4480平方メートルは、先に示された素案より680平方メートル（3億4千万円）程の増となっている。会議室との共用であった保健集会室・防災対策本部室を新たに設置する訳は、**町長** 福祉保健関係を1階に集約するために、保健相談室と集会室を新設する。また、防災管理室との連携

田甫 トイレ192平方メートルは約7倍で、避難人口620人への対応と思うが算出基準は。「ゆうゆ」500人に対するトイレ面積は。**町長** 基準はないが文化センターのトイレ約64平方メートルを基にした3フロアー分である。「ゆうゆ」トイレの総面積は52・3平方メートルである。**田甫** 散布地区約600人の指定避難所である茶内トイレルセンのトイレは1階のみであり改修が必要では。**町長** 備蓄品として簡易トイレを配備しているが、検討課題と捉えている。**田甫** 地域防災計画にある「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の位置付けは。**町長** 一時的な避難場所と長期避難施設である。**田甫** 基本構想でも「一時避難場所として活用する」とあり、霧多布地区の避難住民も警報解除後は内陸部の指定避難所へ移動となると思う。どこ施設か。**町長** 霧多布地区の指定避難所は定めていない。分散

しての避難となる。**田甫** 新庁舎に避難スペースを設けることに何ら異論はないが、現在の人口1120人をベースに必要な避難面積が積算されている。供用開始予定は平成33年その後の避難人口推移は。**町長** 庁舎面積は業務に必要な面積の合計で、その中で避難面積を確保するもの。ただ、基本構想での面積は最大値として積算。

避難人口推移は、供用開始から5年後1033人・10年後975人・15年後914人と推計している。**田甫** 「厳しい財政事情を鑑み、各室スペースの必要性を十分に検討した計画とする」とあるとおり、地区別人口推計などのデータを示し地域住民、特に次代を担う人々と話し合うことが必要と考える。



一般質問

加藤 弘二 議員



問 オスプレイの使用を拒否せよ

答 防衛省の説明を受け対応したい

加藤 新聞報道によれば8月の日米合同演習で米海兵隊のMV22オスプレイが矢白別にやって来ると聞くが対応をどう考えているか。

町長 6月23日、北海道防衛局が本町に説明に来ることになっている。

加藤 われわれの調べで5月には海兵隊の先遣隊員が10人ほど矢白別に来ている。強大なヘリパッドを作るた

めか碎石をダンプで1000台も運んでいると聞いている。把握しているか。

町長 把握してはなかったが、別海駐屯地に確認の結果、演習場内の道路および施設補修のため搬入したとの回答を得ている。

加藤 沖縄県や山口県岩国で住民の反対運動が激しく行われてきたが、そのわけは何故か。

とにかく騒音は大きい。矢白別周辺は放牧の真つ最中であり大きなオスプレイが低空飛行で飛ばれたら、牛の暴走は必須である。

また、矢白別は道東の大自然で動植物の聖地でもある。小鳥たちのコロニーを破壊させてはならないし熱風で植物が焼き殺されることも考えられる。矢白別は

日本一広い演習場で周辺に人口密集の地域はないことから、将来オスプレイ専用の演習基地にされる可能性は大である。町は、オスプレイの飛来には断固反対してほしい。

町長 よく勉強して、町民の命と安全を守る観点で対応していきたい。

町長 十分把握していない。**加藤** 従来、特に米海兵隊が新しい演習を始める時には一年も前から地方自治体に説明をしてきた。しかし今は違う。地方自治体の要望など聞く姿勢はない。日米首脳で「日米安保条約堅持」で握手して以来、米軍の言いなりで自由に使わせている。オスプレイは欠陥機で墜落事故を起こしている。沖縄名護市で海岸に墜落事故を起こしたのに「不時着」と言い切り、事故究明も公表せず6日後には演習を始めている。一機100億円するオスプレイを自衛隊は17機購入することになっている。



矢白別演習場の入口

一般質問

前田 光治 議員



問 今後の防災対策への 取り組みは

答 各関係機関との 連携体制が大事

前田 毎年5月24日に津波防災避難訓練を行っているが、東日本大震災から早くも6年が経過し、参加者が減少しているように思われる。

本年の避難訓練と震災後の参加人数および訓練内容は、また、今後の参加者増に繋がる取り組みは。

町長 平成23年の東日本大震災後初の訓練では、訓練

対象者3875人に対して参加者人数908人、参加率23・4割で、避難場所など見直し後の平成24年の訓練は10月13日に実施し、訓練対象者3762人に対して参加者人数1474人、参加率39・2割であった。

25年～29年の避難訓練実施状況は24年度をピークに落ち気味となっている。

今年の参加者は、574人、参加率16・9割と減少している。

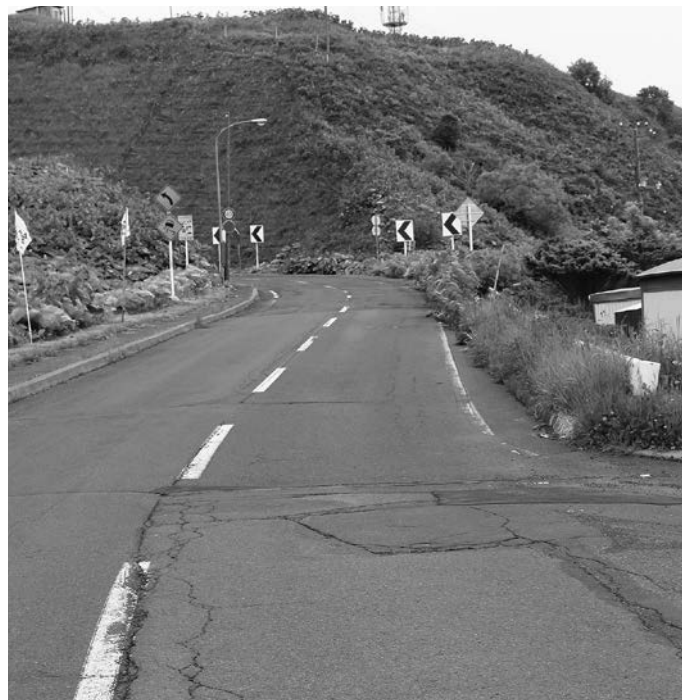
訓練内容は、25年・26年

の避難訓練で茶内コミュニティセンター・浜中および姉別農村環境改善センターの3施設で、自治会の協力のもと炊き出し訓練を行った。

26年には、災害に備えて「防災講演会」を開催した。

27年からの訓練では、「自主的な避難所運営」として各避難施設・避難場所で参加者名簿の作成を行っている。

また、「ゆうゆ」と「MOTIO」かせて」では、車の渋滞解消対策を行った。



歩道整備が待たれる湯沸坂

参加者の増加に繋がる取り組みは、HUG（避難所運営ゲーム）を行い、防災意識の向上が図られる取り組みを行う。

今後は、訓練がマンネリ化しないような工夫を行いより住民の意識の向上維持を図るとともに、住民・関係機関・団体との連携を図ることが大事な取り組みと考える。

問 高台への歩道整備は

答 北海道への働きかけを継続する

前田 湯沸へ至る道道は、霧多布地区の住民にとって重要な道路となっているが迅速で安全な避難を実現するため歩道新設の考えは。

町長 現在ある歩道の反対側に歩道を新設する事は、現在も北海道に働きかけている状態である。早急に検討を進めようとしている状況であり、その内容は、車道と法面とのスペースに歩道ができるような方法を検討しているとの回答を得ている。

雲外蒼天

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校
3年A組

澤辺 大地だいち



これまで「浜中学」では、浜中町の自然、産業、文化についての学習や調査を行

豊かな資源を生かし、生産を高め、
活気のあるまちをつくりましょう。
(町民憲章より)



活気づく昆布漁

い、その結果を大学などで発表してきました。現在は、町の人口減少問題を考え、「人口増加・定住化」を目標に設定し、調査活動を行っています。

「浜中学」は地域社会の担い手となる人材の育成を目的としています。その人材育成において私が大切だと考えているのが「共育」というものです。

「共育」とは、多様な立場や領域の人や組織が連携して教育を担うという意味の造語です。浜中学では、地元企業や団体と連携した授業が行われています。例えば、授業の中では地元の漁

師さんに食材の提供をしていただき高校生がレシピを考案するなど、町の観光やPR活動について高校生が意見やアイデアを出し合っています。授業を受けていると、これから町を担っていく私たちが、町の発展に携わる方々と議論などをしていくことが重要だと深く感じます。そうすることで調査活動のヒントを見つけられたり、お互いに新たな発見があれば、町のさらなる発展に活かすことができると思います。

私は、「浜中学」で町のPR活動について学び、浜中町にどう貢献できるのかを考えて活動しています。浜中町はウニや昆布などの海産物や良質な生乳自体は有名なのですが、「浜中町」という名前自体はあまり知られていないと感じています。浜中町をもっとPRしていくために、どうすれば町全体を巻き込んで「オーラル浜中」でPRを進めていくことができるかを現在模索しているところです。私自身、まだまだ浜中町について知らないことが多くありますが、高校生の視点か

ら町の発展に対して、少しでも多くのアイデアを出し、町の活性化につなげていきたいと考えています。

また、これからの活動でも高校生としてできることを考えて取り組んでいきます。

● 揮毫 書道部3年A組 鈴木 葵さん

● 読み方 うんがいそうてん

● 意味 困難を乗り越え努力して克服すれば快い青空が望めるという意味



表紙の写真

霧多布保育所の運動会が6月25日に行われました。あいにくの悪天候のため総合体育館での実施となりましたが、練習と場所が変わっても子どもたちは元気いっぱい。家族やお友達の声援を受け笑顔で競技をしました。

あとがき

役場庁舎の改築が、具体化してきました。昨年10月の臨時議会で、移転先を湯沸山とする「役場の位置を定める条例」の改正案を全会一致で可決し、測量調査などを経て、現在は基本計画の策定中。予定では、平成31年4月敷地造成に着手、同年8月新庁舎建設開始、33年3月完成の見込みです。

その後、旧庁舎の解体とともに、霧多布中央通り(旧火防線)と新庁舎を繋ぐ道路が33年11月に完成の予定です。

新庁舎からの眺望は、遙か根室半島までも視界に収め「霧多布温泉ゆうゆ」と並んで浜中観光の名所、そして浜中町民の「安全・安心」のシンボルとなることでしょう。

牧草の刈り取り、昆布漁業ともに繁忙期を迎えています。家族やお友達の声援を受け笑顔で競技をしました。

（委員 中山）